

継続的なまちづくり活動に向けた“参加の動機”が組織運営に与える影響 ー活動者の観点に基づく分析ー

西部技術コンサルタント(株) 正会員 ○田邊 信男
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 正会員 氏原 岳人
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 正会員 阿部 宏史

1. 研究の目的と背景

近年のまちづくりにおいては、市民が NPO やボランティアへの参加を通じて、自覚と主体性をもって、社会資本の維持管理や公共サービスの事業継続をサポートする「継続的な活動」に関わり、地域の新たなまちづくりに発展させるとともに、本来の目的である市民参加を越えて、施設・サービスの維持管理や地域内への多様な波及といった効果を生み出している事例が見受けられる¹⁾。このようなまちづくりに関する活動を継続していくためには、市民の参加意欲と社会を良くしていくための活動内容が必要であり、特に市民団体などの組織を運営する活動者の役割が重要となる。

本研究では、継続的に活動している任意団体(法人格を持たない任意の市民団体)と特定非営利活動法人(以下 NPO と略す)の活動者を対象として、環境保全や観光の振興などを含むまちづくり活動における継続的な活動への参加意欲をもたらす参加動機に注目し、アンケート調査を通じて、活動者の参加動機の構成要因が組織運営に与える影響を明らかにする。なお、継続的な活動とは、公共主体(行政)と対等な立場で展開される地域の課題解決に向けた取り組みが 2 年以上続いた活動と定義する。

2. 既存研究と本研究の位置づけ

本研究の内容と関連が深い「意識や行動変化に関する研究」を取り上げると、崔らの研究²⁾や谷田らの研究³⁾がある。これらの既存研究では、意識差や意識構造を定量的に分析しているが、継続的な市民参加の動機に着目し、参加動機の構成要素が組織運営に与える影響を考察したものではない。本研究では、岡山市、倉敷市、瀬戸内市を対象に継続的に活動している団体に対して、独自のアンケート調査を実施し、参加動機の構成要因

を定量的に分析し、それらが組織運営に与える影響を検討する。

3. アンケート調査概要

アンケート調査に際しては、岡山県晴れの国地域づくり NET、内閣府 NPO 法人ポータルサイト、瀬戸内市まちづくり団体 NET を利用して、岡山市、倉敷市、瀬戸内市において 2 年以上継続的に活動しているまちづくり団体 59 団体を抽出した。そして、団体の代表及びリーダー(理事、事務局、運営委員)に対して、表-1 に示す内容で、個人面接および郵送法による調査を実施した。

4. 参加意欲の構成要素が組織運営に与える要因分析

継続的な活動への参加の動機は、表-2 の表側に示す 13 項目である。分析データは、4 段階の順序尺度(4 関係ある 3 少し関係ある 2 あまり関係ない 1 関係ない)として取り扱い、サンプル数は、継続的な活動の定義に基づき、行政と対等な立場で地域の課題解決に向けた取り組みが、主体的に 2 年以上行動できている活動者(N=88)である。分析では、まず主因子法の直交回転バリマックス法による因子分析で得られた因子負荷量を用

表-1 アンケート調査概要

調査方法	個人面接・郵送法
調査期間	平成26年2月4日～平成26年2月28日
配布・回収率	団体配布部数59団体
	団体回収数53団体、回収率90%
	個人配布部数125部数
	個人回収率100部数、回収率80%
団体属性	NPO:24団体、任意団体:29団体 岡山市:24団体、倉敷市:25団体 瀬戸内市:4団体
調査項目	1.あなたが活動している団体での継続的な活動についての課題
	2.まちづくり学習について
	3.継続的な活動についての参加の動機について
	4.団体の運営について
	5.回答者及び団体自身について

キーワード：市民参加、継続的な活動、参加の動機、組織運営

連絡先：岡山市北区問屋町6-101, TEL086-246-5667, FAX086-246-5671, E-mail n.tanabe@seibuct.jp

いて、参加の動機の因子を抽出した。次に、因子分析により算出された因子得点と表-3の表側に示す組織運営の5項目を用いてスピアマンの順位相関係数を求め、抽出された因子と組織運営の影響を分析した。分析データは、4段階の順序尺度（4当てはまる3少し当てはまる2あまり当てはまらない1当てはまらない）として取り扱った。因子分析による第1～第4因子の累積寄与率は60.8%であった。表-2に因子負荷量の算出結果を示す。この4つの抽出された因子を解釈したところ、「社会的信望」、「社会や理想への達成感」、「報酬」、「仲間との連携」とネーミングを設定した。

スピアマンの順位相関行列の分析結果を表-3に示す。「社会や理想への達成感」は、組織運営の「意欲的な参加」、「地域貢献の活動目的」、「ネットワークによる活性化」、「地域に認められた」という4つの項目について正の弱い相関が認められた。この理由としては、「社会に奉仕していきたい」や「地域がよくなれば自分の生活環境もよくなる」、「地域に貢献したい」などの「社会や理想への達成感」という参加の動機が、組織の活動目標と共有し、地域を良くしていきたいという行動に繋がっている。これらが、組織の活性化に影響している要因と推察できる。また、「報酬」は、「組織の役割分担」について弱い負の相関が認められ、その他の4つの項目とは関連性が認められなかった。これは、報酬を求めている活動者は、報酬に見合った活動しか行わないことが、要因の一つとして考えられる。

「仲間との連携」は、組織運営の5つの項目とは関連

表-2 因子負荷量算出結果

因子		因子1	因子2	因子3	因子4
質問内容		社会的信望	社会や理想への達成感	報酬	仲間との連携
継続的な活動への参加の動機	社会的な信用を得たい	0.866	0.040	0.200	0.272
	周りの人から信頼されたい	0.819	0.274	0.175	0.241
	社会的に信用されたい	0.655	0.117	0.291	0.110
	社会に奉仕していきたい	0.121	0.688	-0.190	0.431
	地域がよくなれば自分の生活環境もよくなる	0.114	0.684	0.122	0.154
	地域に貢献したい	0.107	0.652	-0.225	0.409
	活動することが自分の誇り	0.052	0.644	0.075	0.109
	自分の理想を実現したいという目標	0.255	0.422	-0.108	-0.332
	知識を生かすための代価として報酬がほしい	0.234	0.028	0.927	0.000
	時間に見合った報酬がほしい	0.264	-0.071	0.825	0.062
	仲間と一緒に活動したい	0.110	0.288	-0.052	0.646
	新しい仲間を見つけない	0.285	0.224	0.010	0.541
	信頼する人から頼まれた	0.248	0.082	0.159	0.519

性が認められなかった。「仲間との連携」したいという思いは、自らの意思に基づく明確な活動目標になっていないことが、組織運営との関連性が認められなかった要因と推察できる。

5. 結論

「社会や理想への達成感」という参加の動機を持って活動している活動者は、「組織の役割分担」以外の4つの組織運営の活性化に影響していることが明らかとなった。活動者自身が自らの意思に基づいた活動目標を持ち行動していくことが、組織運営の活性化に影響している要因と考えられる。また、組織運営をより活性化していくためには、参加意欲に繋がる参加の動機としての「社会や理想への達成感」を高めていくための人材育成や学習する組織体制が必要であると考えられる。

今後の課題として、今回の分析に使用したデータは、岡山市、倉敷市、瀬戸内市に存在する59の任意団体とNPOに限られているため、更なるデータの蓄積や事例分析を通して、分析結果および考察の精緻化を図っていく必要がある。

参考文献

- 1) 建設コンサルタンツ協会参加型計画専門委員会：「市民参加型計画とマネジメント」, 2007.10
- 3) 崔正秀, 小嶋文, 大和谷敦史, 坂本邦宏, 久保田尚：「地区交通計画プロセスの進行過程における住民意識構造とその変化」, 第32回土木計画学研究講演集, 159, 2005
- 3) 谷田貝曜, 小根山裕之：「地域防災活動との相互作用を考慮した防災意識の構造分析」, 第33回土木計画学研究講演集, 262, 2006

表-3 スピアマンの順位相関行列

因子		因子1	因子2	因子3	因子4
質問項目		社会的信望	社会や理想への達成感	報酬	仲間との連携
組織運営	意欲的に参加【意欲的に参加していますか】		0.253**		
	組織の役割分担【組織の役割分担のもと運営していますか】			-0.390***	
	地域貢献の活動目的【地域に貢献することを目的に活動していますか】		0.257**		
	ネットワークにより活性化【ネットワークを生かした活動により団体が活性化してきたと思いますか】	0.183*	0.200*		
	地域に認められた【活動が地域に認められてきたと思いますか】		0.224**		